

アカイカ研究会 通信

平成16年2月
鳥取県アカイカ研究会
第1号



はじめに

一昨年（平成13年度）のアカイカの魚
価安に、‘このままではダメだ！！’と立ち
上がった私たち漁師の活動（鳥取県アカイ
カ研究会の活動）。ここまで私たち漁師自身
が行なった数多くの様々な活動と、会員の
皆様のボランティア的なご協力の結果、鳥
取県でのアカイカの存在感を確立し、価格
下落の底支えを成し遂げたという大きな成
果がありました。

平成14年1月の立ち上げから会員の皆
様とともに歩んだ今までの活動の実績をこ
こに報告いたします。ついで、本年度の目
標として、今後の問題点、活動の方向性を
記します。

また、栽培センターの生態研究報告（平

成14年）や昨年私たちも協力した「アカ
イカ標識放流調査試験」（平成15年）の結
果も載せました。

（アカイカ研究会会長、廣岩栄一）



二年間の活動実績

立ち上げ

平成14年1月18日に「鳥取県アカイ研究会」を発足しました。みんなで力を合わせ、アカイカ魚価向上に向けた取組がスタートしました。



研究会発足

県内へのPR

県内で行われた各種イベントに参加し、アカイカの試食や販売を実施しました。



アカイカ焼き出店
大盛況でした！！

アカイカ天ぷら試食販売
確実に「アカイカ認知度」
がアップしました



また、旅館組合・飲食関係、生協などへのPR活動も実施しました。



すし商組合20周年祝賀会

マスコミへのPR

アカイカ研究会の活動は新聞雑誌にも多数取り上げられました。またテレビ・ラジオにも多数出演しました。



国内・海外での活動報告

本研究会の活動を広く知っていただくため、県内・県外・海外で活動報告を行いました。特に「日韓水産セミナー（韓国・カンヌン市）」での発表は非常に高い評価をいただきました。

日韓交流セミナー
での活動報告



アカイカ料理・加工の研究

アカイカの需要を広げるために、加工法や料理法の開発を行いました。



アカイカ薫製
(試作品)



アカイカのカルパッチョ
(ホテルニューオータニ)



アカイカ冷凍ブロック開発
(アカイカ加工販売促進協業体)

アカイカ音頭完成

音楽にのせた売り込み

アカイカ音頭なる CD も作ちゃいました。各種イベントでアカイカ音頭を踊り、アカイカを PR しました。

元唄赤いか音頭



唄 池内 あやみ
藤田 俊介



がんばってます

料理講習会などを開催

アカイカの料理方法を知ってもらうため、栄養士さん、主婦を対象とした料理講習会も数多く行われました。



給食の食材に取り上げられる

こうした取組の成果もあり、保育園、小学校、老人ホームなどの給食の食材としてアカイカが利用されるようになりました。



鳥取市湖山保育所
子供達にも大好評！！

2年間の活動実績・総計

活 動 内 容	回 数
イベント参加・出店 P R	13 回
試食会	6 回
催し物・会議などでの P R 活動	16 回
マスコミ出演 (ニュース・新聞・ケーブルテレビは除く)	9 回
活動報告	5 回
料理講習会	6 回
アカイカ加工・料理研究	4 回
給食の食材へ導入	5 回
運営委員会・幹事会	11 回
総 計	75 回

アカイカ

資源・生態調査の取り組みと結果

(栽培漁業センター研究員：太田)

はじめに

栽培漁業センターでは、平成14年度からアカイカの資源生態的な調査を開始しました。この調査の目的は、アカイカの漁期、漁場、その年の資源量などの予測技術確立のための基礎的な情報を蓄積することにあります。

また、今年度からは東部・中部漁業振興協議会による標識放流調査が実施されました。アカイカのことを最もよく見、最もよく知っている漁業者の方々が主体となってアカイカの生態解明に乗り出したことにより、多くの知見を得ることが出来ました。

さらに、アカイカは広く回遊する生物であり、鳥取県単独の調査ではなかなか生態把握が出来ません。そこで、以前よりアカイカの調査を行ってきた兵庫県との連携・協力を密に行っています。昨年の6月のアカイカ研究会運営委員会では兵庫県但馬水産技術センターの宮原一隆主任研究員にお越しいただき「日本海アカイカ長期漁況予報」という内容の話題提供をしていただきました。



運営委員会での宮原氏の講演

この2年間、漁業者の皆様、隣県との連携を深めて調査を進めることにより、「日本海におけるアカイカの生態はほとんど何もわからない」という状態から、少しずついろいろなことが見え始めてきました。ここでは、その結果の一部を紹介したいと思います。

但馬沖の冷水塊の挙動とアカイカの資源量の関係

鳥取県漁協本所(賀露)を中心に、アカイカの市場調査(水揚げ物の胴長の測定など)を実施しています。図-1に平成14年におけるアカイカの胴長組成の経時推移を示しました(平成15年の結果よりも説明がしやすいので平成14年の結果を使います)。この図からわかる一番重要なことは、鳥取沖の漁場では漁期開始期だけでなく、漁期中盤や終盤にも新たな群の加入があるということです。平成14年では漁期の開始期以外に9月下旬や10月上旬にも新たな群の加入があったものと考えられ

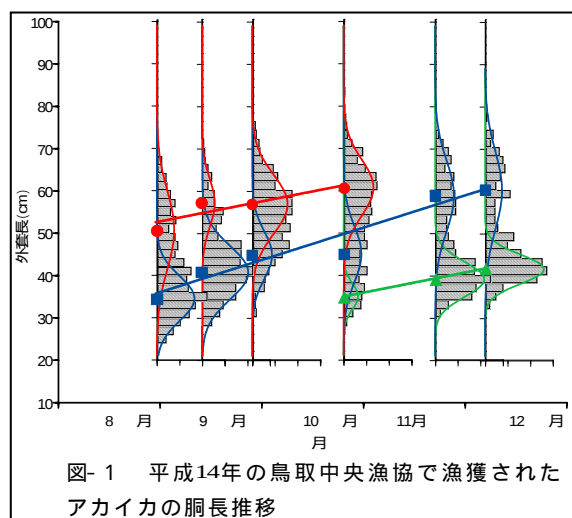


図-1 平成14年の鳥取中央漁協で漁獲されたアカイカの胴長推移

ました。

また、平成14年は、アカイカの資源量が増加した時期(9月下旬)と、但馬沖に張り出していた冷水塊の崩壊した時期がほぼ一致していました。このことから、冷水塊の挙動と鳥取県沖に分布するアカイカの量には深い関連性があるものと考えられました。

平成15年の漁獲動向

-漁獲量減少の原因-

平成14年の結果(前項)から但馬沖の冷水塊が鳥取沖のアカイカの資源量を左右する大きな要因となっている可能性が示唆されました。

ところで、平成15年(323ト)は14年(250ト以下の見込み)に比べ漁獲量が大きく減少しました。これは15年が14年に比べ但馬沖冷水塊が非常に発達しており、この影響が強かったことに起因していると考えられました。やはり、但馬沖冷水塊はアカイカの好不漁のキーとなっているようです。

標識放流調査

今年度、漁業者の自主的な試みとして「アカイカ標識放流調査」が実施されました。これは、アカイカに標識を装着して放流し、再捕した方に報告をいただくことにより、回遊実態などを把握しようという試みです。



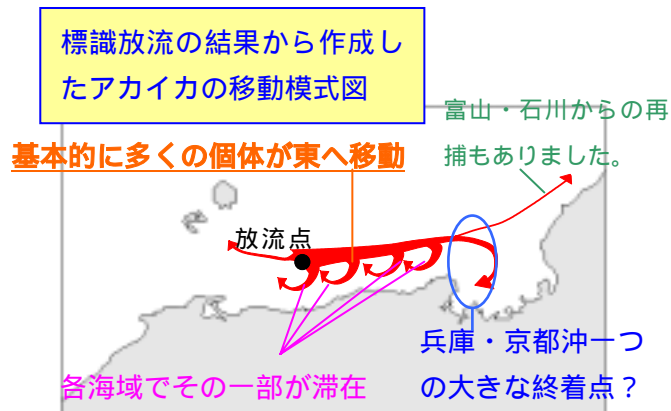
栽培漁業センターで出来る調査には限界があります。しかし、アカイカのプロの方々により、「生きたアカイカの動き」を調べていただいたおかげで、多くの知見を得ることが出来たと思います。今回の調査結果は、「効率的なアカイカの漁獲」を考える上で、かなり重要なものであったと考えています。また、私自身にとっても、このような大規模な取り組みのお手伝いさせていただいたことが、本当に大きな経験となりました。心から感謝いたします。

結果の詳細については、各振興協議会にお持ちする報告書を作成中であり、そちらで紹介させていただきます。今回はページの都合上、概略のみとさせていただきます。

今年は合計 280 個体以上のアカイカを標識放流し、63 個体の再捕報告をいただきました。この結果、多くの個体が東方向へ移動していることがわかり、最も速い個体は 1 日 60km 以上も移動することがわかりました。

今年度は「昨日と今日で獲れる量が全然ちがう」「船によって獲れる量の差が大きい」というご意見も聞きましたが、これはこのような速い移動傾向に起因していたのかもしれない。

また、今年度は冷水塊の発達、速い潮流等、かなり特殊な海洋環境であったと思われます。「他の年でも同じような移動傾向があるのか?」是非確かめてみたいものです。



本年度(平成十六年)の目標

平成13年度に比べ、平成14年度は1キログラムあたり平均100円以上アップしました。これは漁獲量の減少分の考えると、必ずしも全てが活動の成果とは言えませんが、家庭で捌きやすい小型サイズの価格が大幅にアップしたのは、この活動を通して広く県民にアカイカの魅力をアピール出来たからだと思います(平成15年度の結果はまだ調査中)。

本年度(平成16年)は立ち上げから3年目(当初の3年計画の最終年度)となります。アカイカをより広く県民の皆様に食べていただくように、量販店・スーパーに置く「アカイカレシピ」を作成、配布を考えています。

アカイカ料理レシピ集

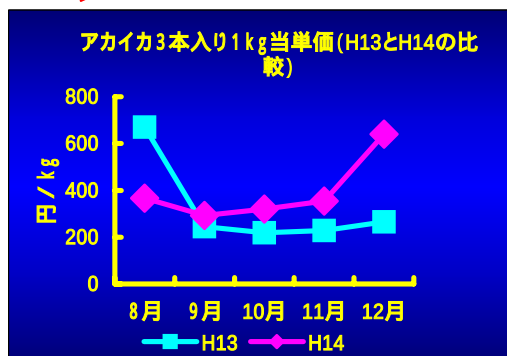
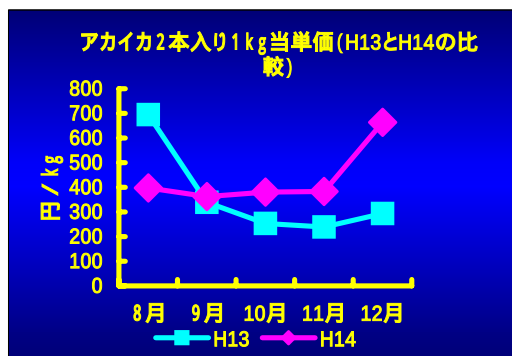


発行：アカイカ研究会

レシピ集を作成予定！！

消費者の方々にアカイカの料理法を普及します。

小型個体の単価アップ！！



あとがき

鳥取県には豊かな日本海があり、四季を問わず1年中多くの水産物が漁獲されています。イメージして下さい、砂丘の背景には必ず海があり、大山も日本海からそそり立っている事を。アカイカに限らず、その豊かな海「豊饒なる鳥取の海」を私たち漁師が日本全国に向けて情報発信する事は大切です。今後ともご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

